託麻東小学校よい子のくらし

令和７年４月

みんなが気持ちよく、安全に、楽しく過ごすための約束です。
お互いに、決まりを守って、生活しましょう。

１　登校・下校

（１）通学路を通り、交通の決まりを守って登校します。
- 道を横断するときは、左右をよく確認して、横断歩道を渡ります。
- 車での登校はしないようにします。

※　将来の自立に向けて、登校は歩いてくるようにします。怪我や体調不良など車での登校が必要なときには、担任の先生に相談して駐車許可書をもらいます。

（２）登校は、事故を防ぐために早すぎたり、遅すぎたりしないようにします。
- **７時４０分～８時１０分の間をめやすとして**登校します。

（３）放課後は、部活動や委員会などの用事のない日は、下校時刻を守って寄り道などをせずに、安全に下校します。

（４）部活動のときに、休日であっても自転車を利用しての登校はしません。

（５）遊びに行くときは、必ず一度家に帰り、ランドセルを置いてから出かけます。

２　学校の中で

（１）チャイムの合図を守って素早く行動します。

（２）そうじは、時間を守って静かに取り組みます。

（３）放送は、話をやめてしずかに聞きます。

（４）ろうかは、静かに右側を歩きます。（走ったり、暴れたりしません。）

（５）自分の持ち物には記名をし、きちんと整理します。（鉛筆、くつ、かさ等）

（６）職員室やよその教室に入るときには、中にいる先生の許しを受けて入ります。

（７）学校に一度登校した後は、忘れ物などがあっても勝手に取りに戻りません。

（８）名札は、上着の左胸につけます。

（９）学校には必要のない物、危険な物は持ってきません。

（10）学習道具は「学習用具をととのえよう」のプリントをよく読んで、準備します。

３　服装について

（１）標準服をきちんと着ます。（詳しくは、裏に言葉と図で説明してあります。）

（２）くつは、運動しやすいものをはきます。

ハイカットのくつやそこの厚いくつは休みの日にはくようにして、学校には着脱しやすく運動がしやすいようなものをはいてくるようにします。

（３）頭髪は清潔にしておきます。

前髪が目にかかったりすると視力低下につながります。また学校生活を過ごしやすくするために、肩まで伸びた髪は黒や茶色のゴムで結ぶようにします。髪を

染めたり、刈り込みをしたりはしません。

４　校外生活について

（１）デパート、ショッピングセンター、カラオケボックス、ボウリング場、映画館、飲食店、ゲームセンター、学校以外のプール、川、池、などには、子どもだけで行きません。

（２）パチンコ店、ビリヤード店などには、大人と一緒でも出入りしてはいけません。

（３）夜間、子どもだけで外出はしません。やむをえず外出する場合は、保護者もしくは責任ある大人の方と一緒に行動します。

（４）子どもだけで友達の家などに泊まりません。

（５）**友達の家に遊びに行くときは、１０時を過ぎてからにします。おうちの人がいないときには、家の中に入りません。食事の時間になったら、帰ります。**

（６）自転車は低学年は自分の家の周り、中学年は自分の町内、高学年は校区内を乗ります。 **安全のためにヘルメットをかぶります。**

※道路交通法改正により「保護者は、児童を自転車に乗せるとき、ヘルメットをかぶらせるよう努めなければならない。」となっています。

（７）危険な遊びや、人の迷惑になるような遊びはしません。

・エアガン等（ＢＢ弾等を使ったおもちゃの銃）での遊びはしません。

・マッチ、ライターなどを使った遊び（火遊び）は絶対にしません。

・道路でローラースケート、ローラーブレードなどはしません。

・よその家の敷地や駐車場、畑やビニールハウスの中に勝手に入りません。

（８）休みの日でも、学校でお菓子を食べたりジュースを飲んだりしません。

（９）３月から９月までは**午後６時まで**に、１０月から２月までは**午後５時まで**に、家に帰ります。

（10）携帯電話、パソコンにおける個人情報の取り扱いには、十分注意します。インターネット上で知り合った相手と直接会ったり、個人情報をネットに書き込んだりしません。日常生活でしてはいけないことは、インターネット上でもしてはいけません。家の人と決めたルールを守ります。年齢制限があるので、小学生はSNSなどへ動画の投稿はできません。

～　保護者の皆様へ　～**子どもたちを、健やかに育てていきましょう。**

本校では、「託麻東小学校よい子のくらし」を作成して、子どもたちを指導しています。ご家庭でも、よく子どもさんと話をされ、安全な生活が送れるようにご指導ください。

ご家庭と地域と学校が手を取り合い、支えあって、託麻東小学校の子どもたちを見守っていくことが大切であると考えます。

未来に生きる子どもたちを、私たち大人がみんなで育てていきましょう。